トランスアトランティック・エコロジー
―ロマン主義と環境批評―

2018年3月11日（日）

同志社大学
室町キャンパス 寒梅館６階会議室

京都市上京区今出川通烏丸東入
（地下鉄烏丸線「今出川」駅２番出口から徒歩1分）

公開セミナー　第一部（12:15 ～ 13:45）

司会：吉川　朗子
- 川津　雅江　　環大西洋の農業共和主義と北方の原野―ウルストンクラフトの環境意識
- 金津　和美　　破局のエコノミー―クレアとソローの自然史

司会：植月　惠一郎
- 小口　一郎　　“Romantic Things”を超えて―ワーズワスとソロー
- 伊藤　詔子　　レテの川から難破の浜辺へ―ミルトン、コールリッジ、ソロー

公開セミナー　第二部（14:00 ～ 15:30）

司会：金津　和美
- 成田　雅彦　　「歴史」の解体―エマソンの自然像と環大西洋思想の文脈
- 吉川　朗子　　鉄道・自動車・散策・環境意識―大西洋の両岸で

司会：伊藤　詔子
- 植月　惠一郎　鯨と海のエコロジー―イギリスとアメリカ
- 藤江　啓子　　メルヴィルとマテリアル・エコクリティシズム―創造性を中心に

講演（16:00 ～ 17:30）

司会：川津　雅江

鈴木 雅之氏　　「見えざる世界の証明」―スヴェーデンボリ、ブレイク、エマソン―
（“Testimony to the Invisible”：Swedenborg, Blake and Emerson）

懇親会（18:00 ～）

会　場：Hamac de Paradis 寒梅館（寒梅館1階）
会　費：¥4,000（フリードリンク）
問い合わせ先：金津和美（kkanatsu@mail.doshisha.ac.jp）
配布資料や懇親会参加をご希望される方は、前もってご連絡ください。

主催：平成 27 ～ 30 年度科学研究費補助金・基盤研究（B）「トランスアトランティック・エコロジー―環境文学／思想の還流と変容」（研究代表者：川津雅江）

http://sunrise-n.com/transatlantic_ecology/

トランスアトランティック・エコロジー

―ロマン主義と環境批評―

講師紹介

鈴木雅之（すずき まさし）：

1975年 東北大学大学院文学研究科博士課程単位取得満期退学（英文学専攻）。

1975年 山口大学、1990年 京都大学を経て 2009年 宮城学院女子大学。博士（文学、京都大学）。

FEA. 京都大学名誉教授。現在、宮城学院女子大学特命教授。

主要研究業績

1.『幻想の詩学―ウィリアム・ブレイク研究』京都：あぽろん社、1994.

2.『講座英米文学史・詩 II』共著、東京：大修館、2001.

3.『グノーシス―異端と近代』共著、東京：岩波書店、2001.

4.『越境する芸術家―現在（いま）、ブレイクを読む』共著、東京：英宝社、2002.

5.『揺るぎなき信念―イギリス・ロマン主義論集』共編著、東京：彩流社、2012.

6.『古典について、冷静に考えてみました』共著、東京：岩波書店、2016.

7. " 'Signal of solemn mourning'：Los/Blake's Sandals and Ancient Israelite Custom."
JEGP 100.1（2001）：40-56.

8. *The Reception of Blake in the Orient.* Co-ed. London: Continuum, 2006.

講演要旨

本講演の目的は、18世紀後半から19世紀半ばにかけて、ヨーロッパのみならず大西洋の両岸においても幅広く受容されたスウェーデンの神秘思想家エマニュエル・スヴェーデンボリ（1688-1772）を取り上げ、スヴェーデンボリがウィリアム・ブレイク（1757-1827）とラルフ・W・エマソン（1803-82）双方（年齢差は46歳）にどのような影響を与えたかを探ることである。そしてスヴェーデンボリ、ブレイク、エマソンの三者が、謂わば、環大西洋的エコロジーを根底で支える精神的支柱、ブレイクの言葉を使えば、「基盤」（Foundation）であり得たことを示す。ブレイクがスヴェーデンボリの神学的著作を評した「基盤」という言葉が、奇しくもトマス・カーライル（1795-1881）が親友エマソンの匿名で出版された『自然』（*Nature*, 1836）を評した言葉と重なることは、注目に値するだろう。聖なる「見えざる世界」の存在を確信すること、このことこそ、スヴェーデンボリが大西洋をはさんでブレイクとエマソンに残した偉大な遺産のひとつではなかったかと考える。個別の論考はあるにせよ、スヴェーデンボリを環大西洋的文学・文化交流の中心人物とみなすまとまった論考は、筆者の知る限り、これまでのところまだ出ていない。